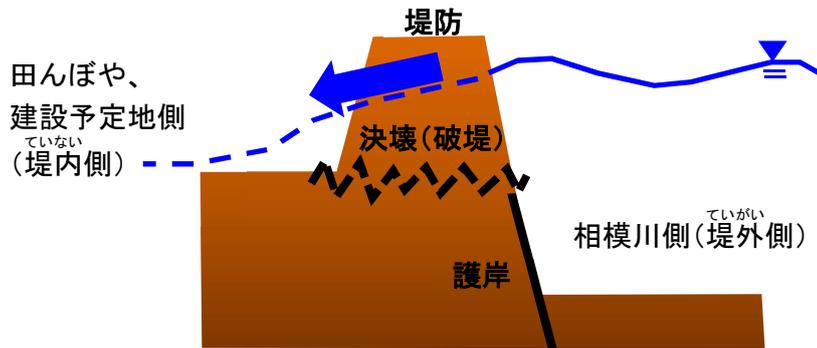


事業区域の嵩上げによる浸水想定区域への影響について（中間報告）

1. 目的

ごみ中間処理施設は、厚木市洪水ハザードマップ（浸水想定区域は神奈川県が作成）を踏まえ、浸水対策のため事業区域全体を約2メートル盛土により嵩上げする計画だが、事業区域の嵩上げが浸水想定区域にどのように影響するか、盛土前後の比較検討を行った。



堤防決壊の模式図

2. 想定する洪水

想定する洪水は、厚木市洪水ハザードマップ（※1）で想定されている 150年に1回程度の降雨量となる大雨により発生した洪水とした。

（※1）ハザードマップの作成は厚木市、マップ内の浸水想定区域は神奈川県が作成したものである。

なお、150年に1回程度発生する大雨の降雨量により川が増水した場合において、仮に堤防が破堤したらどうなるか想定したものである。



厚木市洪水ハザードマップの浸水想定区域

3. 破堤を想定する箇所

破堤想定箇所は、神奈川県による浸水想定区域作成の際の検討条件と合わせ、該当地区周辺で図の箇所a～f（約200m間隔）とした。

盛土前・盛土後で全破堤箇所からの浸水シミュレーションを行い、それぞれの破堤箇所による浸水深を重ね合わせ、最大浸水深分布図を作成した（※）。

（※）作成方法については国の浸水想定区域図作成マニュアルに準拠した。



想定破堤点の位置

4. 結果と効果

対象施設付近の a～f 点を堤防破堤想定箇所とし、盛土前後での氾濫シミュレーションを行った結果、盛土を行った後は浸水が想定されるエリア（リスクのあるエリア）は小さく、浸水深が浅くなる結果となった。これは、想定破堤点 e の堤内側が事業区域の盛土により嵩上げされたことで、想定すべき破堤点ではなくなったためである。

